

2026年度特別展 没後70年

會津八一奈良の美を巡る

奈良東大寺大佛殿大燈燼火蓋文様音聲菩薩其一



八角燈燼音聲菩薩拓影

2026.
10.1 THU
↓
12.6 SUN

10:00 ▶ 18:00

(17:30まで受付)

11月3日は入館料無料

会場／新潟市會津八一記念館

(新潟日報メディアシップ5F)

休館日／月曜日(ただし祝日の場合は翌日／10月13日、11月24日)

観覧料／一般600円、大学生300円、高校生200円、小中学生100円

主催／新潟市、新潟日報社、BSN新潟放送、公益財団法人會津八一記念館

協力／浅川園・今成漬物店、大阪屋、笹祝酒造、里仙

後援／朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局

NHK新潟放送局、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、U-X新潟テレビ21



AIZU YAICHI
MEMORIAL MUSEUM

新潟市會津八一記念館

TEL.025-282-7612
(10:00~18:00)

〒950-0088 新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ5F

<https://aizuyaichi.or.jp>



入場割引券

- 本券持参で2名様まで2割引きいたします
- 他の割引との併用不可
- 2026.12.6まで有効



EVENT information

関連イベント

1 特別展企画トークイベント

事前申込制

「歌を詠むには」

【講師】松村雄基氏(俳優、書家)
角田勝久氏
(新潟市會津八一記念館館長、
新潟大学教授)

【日時】2026年10月10日(土)
14:00~15:30

【会場】日報ホール(新潟日報メディアシップ2階)
【聴講料】1,500円(入館料込み) 【定員】120名



2 特別展文芸講演会

事前申込制

「万葉のころー『万葉集』と會津八一ー」

【講師】井上さやか氏(奈良県立万葉文化館 企画研究係長)

【日時】2026年11月12日(木) 14:00~15:30

【会場】日報ホール(新潟日報メディアシップ2階)

【聴講料】1,000円(入館料込み) 【定員】120名

イベント1と2の受付は13:30からです

3 ワークショップ 書の体験講座

事前申込制

「會津八一を書く」

【講師】田中藍堂氏(新潟県書道協会理事長)
狩野芳明氏(新潟県書道協会事務局長)

【日時】2026年10月29日(木) 14:00~16:00

【会場】カルチャースクールレクチャールーム(新潟日報メディアシップ4階)

【聴講料】1,500円(入館料込み) 【定員】20名

角田勝久館長による作品鑑賞会

【日時】2026年10月24日(土) 11:00~約50分

【会場】当館展示室(申込不要/要当日観覧券)

学芸員による作品解説会

【日時】会期中の毎週日曜日 11:00~ 約50分

【会場】当館展示室(申込不要/要当日観覧券)

期間中、本展覧会名を2人の書家による揮毫で
展示室前に掲示しています。

▶ 10月1日~11月1日: 白石映山先生(新潟県書道協会参事)

▶ 11月3日~12月6日: 島田峰月先生(新潟県書道協会参事)

【申込方法】

イベント1、2、3の聴講を希望される方は、**専用申込フォーム**がはがきのいずれかでお申し込みください。はがきの場合、イベント名と開催日、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、會津八一記念館宛に各イベント開催日の7日前までにお送りください(ただし1通につき、1イベント・1名様のご応募といたします)。定員に達し次第締め切ります。申し込まれた方には当日、聴講券を会場でお渡しいたします。(はがきでの返信はございません)



専用申込フォーム
開催日の7日前迄に
お申し込みください

新潟市會津八一記念館

◎交通のご案内: 新潟駅から バス約9分、タクシー約5分、徒歩約15分、
新潟空港から タクシー約15分

◎駐車場のご案内: 新潟日報メディアシップ駐車場(24時間営業)
第1駐車場は220円、第2駐車場は200円(第1、第2共に30分 税込)

※周辺には、万代シティ駐車場、朱鷺メッセ駐車場などもございます。
※当館へはメディアシップのエレベーターをお使いください。(階段はございません)

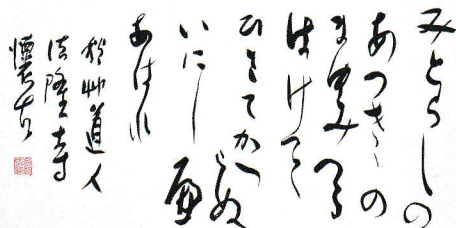


會津八一(1881~1956)は、奈良をこよなく愛した人物です。明治41(1908)年8月、27歳で初めて奈良を訪れて以降、生涯で35回以上、奈良に足を運びました。

八一が奈良に心を寄せるようになったきっかけは、写真家・工藤利三郎(号・精華、1848~1929)による文化財写真でした。工藤は明治26(1893)年、奈良市猿沢池東畔に写真館・工藤精華苑を開き、奈良を中心に各地の寺社や仏像を撮影しています。八一は工藤の写真や交流を通じ、奈良への理解を一層深めました。

奈良を幾度も訪ねた八一は、書家として名を馳せるようになると、東大寺や唐招提寺などの寺院から依頼を受け、書を揮毫しました。現在、奈良県内には八一の歌碑が20基あり、奈良を詠んだ歌人としても高い評価を得ています。

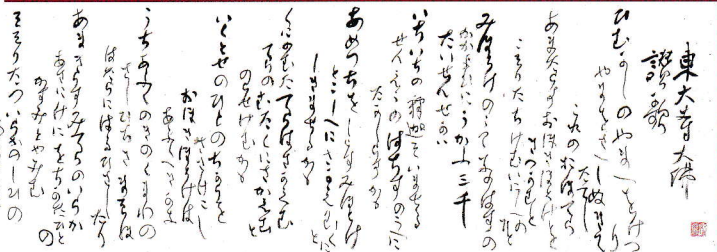
本展では、八一が目にした当時の奈良を伝える工藤利三郎の写真や、寺院に残る八一の扁額など、奈良にゆかりのある八一の名品を展示します。あわせて、八一秘蔵の拓本など、初公開資料も紹介します。



1



2



3



1 會津八一《みとらしの》
(法隆寺蔵)

2 會津八一《風月同天》
(唐招提寺蔵)

3 會津八一《東大寺大佛讃歌》
(奈良大学博物館蔵)

4 工藤利三郎撮影《興福寺 阿修羅像》
(入江泰吉記念奈良市写真美術館蔵)

5 工藤利三郎撮影《東大寺 大仏殿》
(入江泰吉記念奈良市写真美術館蔵)



5

